



(左から)堀尾優介さん、藤田媛子さん、安藤汐里さん、徳永未津希さん

みとよ・ヤング・エコ・サミット 低炭素杯2015 全国のファイナリストに!!!

議長校 香川西高等学校の皆さんに 低炭素杯出場への意気込みを 聞きました!

数多いエントリーの中からファイナリストに選ばれたのは、34校がひとつになったこれまでの取り組みが評価されたということ。とても嬉しいです。発表では、スマイルアフリカプロジェクトの取り組みを紹介しようと考えています。昨年夏に、高橋尚子さんが来訪し、アフリカ・ケニアの現状や、靴が命だけではなく夢と勇気を与えることを話してくれました。私たちが靴にメッセージを入れて送ったことなどと合わせて、全国に発信したいです。自分たちの取り組みを発信することで、この活動が全国にも広まればいいですね。市の代表として責任感を持ってやってきます!

たり、そのほかにもアルミ缶・牛乳パック回収など各学校が環境のために取り組んでいる事例を紹介したりしています。今年度も昨年12月26日に開催され、「グリーンカーテンに使う腐葉土を落ち葉から作っています」「エコキャップなどの回収は月間最多クラスを表彰し、競いあうことで、収集率がアップしました」など、活発に意見を交わしていました。来年度からは「エコキャ

ップ回収」を共通テーマに加えることを議長校の香川西高等学校から提案。承認を受け、幕を閉じました。34校が連携をとり、また学校だけではなく地域を巻き込みながらの活動が、今、全国から注目されています。

「低炭素杯」とは、全国から選抜された温暖化防止に取り組む学校、企業、NPOのファイナリストが集結し、次世代に向けた低炭素社会を構築するための地域性や団体の特性に応じた個性的な温暖化防止の取り組みを発表して、温暖化防止活動の日本一を決定するものです。

温暖化防止活動の日本一を競う、低炭素杯2015。市内小・中・高等学校が行っている「みとよ・ヤング・エコ・サミット」が、応募総数1,730団体の中から、栄えあるファイナリスト39団体に選ばれました。これは昨年に引き続き2回目の快挙。昨年は、議長校を務めた笠田高校が発表の準備を進めていましたが、大雪のため参加ができず、今年のリベンジが期待されます。

「みとよ・ヤング・エコ・サミット」は、高瀬高校の呼びかけにより平成22年発足。市内小・中・高等学校34校が一堂に会し、今ある物やエネルギー・自然を大切に、三豊にエコの輪を広げようとする取り組みがあるので、5回目を迎えました。サミットでは、全学校が共通のテーマとして掲げ実践する「グリーンカーテン運動」や「スマイルアフリカプロジェクト」についての実施報告や情報交換をし



大勢の保護者や教育関係者が見守る中、各校の活動報告が

平成27年度からの新共通テーマ エコキャップ回収

不要になった飲料用ペットボトルキャップを回収し、リサイクル業者に買い取ってもらいます。その対価を得て、ワクチンに変えます。約860個で1人の子どもの命が救えます。



その他の活動 アルミ缶回収など

共通テーマのほかにも、アルミ缶や牛乳パック回収、EM菌のプール散布、生ごみをゼロにする運動など、各学校がさまざまな取り組みをしています。



アルミ缶回収で車いすを寄贈(上高瀬小学校)

共通テーマ スマイルアフリカプロジェクト

「子どもたちに靴を送って、笑顔にしよう」をキーワードに、サイズが合わなくなったり、履かなくなった靴を回収して、はだしやはだしに近い状態での生活を余儀なくされている発展途上国の子どもたちに靴を贈るプロジェクト。この活動に賛同し、2014年11月現在で3,878足の靴を集めました。昨年7月には、これまでの活動が高く評価され、同プロジェクトのフロントランナー高橋尚子さんが市内の小学校、高校を訪れ、感謝の気持ちを伝えました。



共通テーマ グリーンカーテン運動

つる性植物を窓際に植え、太陽の光をさえぎることで温暖化を防いだり、住みやすい住環境を作り出したりするエコ活動。グリーンカーテンを作るだけでなく、地域の人と一緒に作業をしたり、収穫した種を地域の人に配ったりする学校もあり、グリーンカーテン作りを通して、地域の人と関わり、エコ活動を広げています。



市役所職員とエコ活動